

都市計画マスター
プラン
立地適正化計画
策定のための

「第2回、第3回市民会議」 を開催しました！

千歳市では、今後の市民生活や産業活動を支える市街地・都市基盤などの「都市計画」に関して新たな計画（都市計画マスタープラン、立地適正化計画）を策定するため、将来に向けた都市づくりを皆で話し合う『市民会議』を開催しています。

3月中に第2回、第3回市民会議が開催され、委員が4グループに分かれて下記に記載の10のテーマについて「現状・課題」、「提案」の観点でご意見をうかがいました。

今後はこれらの意見を取りまとめ、さらに具体的に検討していきます。



<市民会議で話し合う、10のテーマ>

① 中心市街地の賑わいを高めるためには？

② 市街地の資源（千歳川、道の駅等）をもっと活かすには？

③ 空港や支笏湖、農村との連携をもっと進めるには？

④ 住みたいと思える景観のあるまちにするには？

⑤ 進出企業（働く場所）をもっと増やすには？

⑥ 便利な買い物環境をつくるには？

⑦ 市民ニーズに対応した公園緑地づくりをするためには？

⑧ コミュニティや居住密度を維持するには？

⑨ 災害に備えたまちづくりを進める

⑩ 子育てしやすいまちづくりを進めるには？

各グループごとの現状・課題、提案に関する主なご意見

【Aグループ】

- 様々な土地の人、人材が集まっていることを生かし、イベント開催や各活動のコーディネート、紹介・支援するしくみづくり
- イベント場所としてグリーンベルトやレラ、千歳川周辺の活用
- 人が集まるハブ機能（図書館等）の設置
- キウス周堤墓群や各種遺跡、支笏湖の途中にある渓谷などのビューポイントの発信、自衛隊のまちとして特有の文化の発信
- 自主防災組織の母体となる町内会・コミュニティの醸成について、インバウンド客に対する災害時の受け入れ体制の強化
- 電気が使えないときのアナログ的な情報伝達手法の強化
- 地域に根差した防災情報の拠点として、コンビニエンスストアの活用

各グループごとの現状・課題、提案に関する主なご意見

【Bグループ】

- 店舗の集約化や歩行者天国等による商店街の魅力向上
- 空港や人、水、緑など千歳の資源の活用
- 現在市内に立地している大手の関連企業への企業誘致や居住しやすい環境（土地の購入）づくり
- 商店街ならではの魅力的な買い物環境（食べ歩きができるなど）の創出
- 中心市街地でのイベントなど日ごろから集まれるしかけづくり
- 千歳科学技術大学との連携
- 千歳市の文化・歴史を伝える情報発信、市内店舗の SNS による発信
- 子どもたちが希望する学校に通いやすい環境づくり

【Cグループ】

- 空港周辺での MICE・インキュベーション施設の誘致や新千歳空港インターチェンジ周辺の運送業者が利用しやすい宿泊施設の誘致
- 道の駅の交通や物流、観光拠点化に向けた整備
- 市民や観光客へのキウス周堤墓群の周知およびアクセス手段の確保
- 災害時の交通手段の確保や市内企業との連携体制の強化
- 市街地の回遊を促進するため駐車場の整備
- まちの景観形成のため千歳駅前の整備
- キウス周堤墓群のアクセスの整備や市民への戦略的な周知活動、市内学生への研修誘致
- 災害時に役立つ立て看板やコミュニティ FM、電源の確保に備え蓄電設備を整備、大学・自衛隊・市が連携した災害システムの構築

【Dグループ】

- 商店街の活性化のために空きテナントへの出店支援
- 地産地消の推進
- 若い世代や子育て世代向けイベントや交流の場づくりの支援、情報ツールの周知、公園内の子育て世代の交流スペースの創出
- 千歳らしい教育に向けて自然環境や教育機関が充実したまちのアピールや活用
- 商店街内をはしごしてもらうため、関連する業種の店舗を集約し利用目的や景観の統一
- 学生や子育て世代の利用を想定し、各地区（特に駅周辺）に小規模複合施設を設置（地産地消の買い物施設やカフェ、小さな図書館）
- 青葉公園内でのコミュニティスペースの設置（図書館・カフェスペース等）
- 地域の生活拠点となる買い物施設の維持
- コミュニティ活動やイベントを維持・継続するための協力体制づくり
- 進学や就職に関して理工系に強いまちとしてのアピール